

地域づくり支援の相談窓口機能

顔のある駅前商店街づくりへの支援

(富山市新富町一丁目町栄会)

5

取り組みの背景

富山駅南口正面に位置する新富町一丁目地区の事業者と地域住民の集まりである新富町一丁目町栄会(以下、新富町)への支援は、2009年7月、駅前の衰退を危惧した河口会長と藤本幹事長による、5年後の新幹線開通を見据えた駅前活性化への方策についての相談訪問から始まりました。



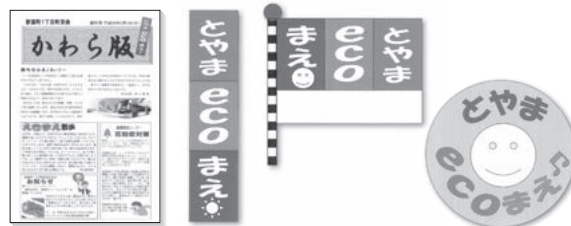
相談テーマは、本学の地域づくりミッションを考慮すれば、積極的に取り組むべきものです。また、富山市と包括協定を締結し、富山市シティプロモーション事業を共同主催するなど、呉東地域への積極支援を行うべく、富山市、富山商工会議所と円滑な関係を構築し、その取り組みに鋭意に努力してきました。そこで、呉東地域での地域づくり支援として、新富町による積極関与が可能であるならば、富山ライトレールや富山市シティプロモーションと同様な協働型ワークショップなどの展開も見据えられることから、同団体の地域づくり人材の育成の観点から会合に参加し、今後の連携の可能性を探りました。



富山市新富町一丁目町栄会の変化

当初は参加人数も少なく、これまでの駅前開発に対する問題点や、相手任せの提案が中心であった会合が、会を重ねるごとに参加人数が増え、意見の内容も、自分達が中心となって行うことの発案へと徐々に変わって行きました。

新富町の自らの行動の第一歩は、イベント開催に際してのアンケート配布です。会長と幹事長の2人が富山大学へ相談に訪れてから実に半年後の会合では、まずは自分達で身近にできる小さなことから始める旨意見がまとまり、その具体案として、地区をあげてのエコへの取り組み、名刺用マップの共有化、かわら版の作成などがあがりました。また、富山市中心部の住民や商店主でつくる「花街道薬膳のまちを夢みる会」のプロジェクトに新富町が協力し、道路沿いの植樹桤に薬草の種をまいたことは、会合での話し合いの結果生まれたものです。



その変化の様子は、兼ねてより新富町と付き合いのある富山商工会議所職員からも声があがっています。また、会員自身からは、大学が入り込むことで話し合いが前に進むようになったとの声もありました。2010年8月の駅前共同イベント「ザ・駅前ナイトフェスタ」を機に、新富町の青年部ともつながりができ、さらに、2010年10月の「富山駅周辺地区の関係者との意見交換会」からは富山駅周辺開発共同組合とのつながりが生まれ、取り組みの輪は次第に広がって行きました。



今後の展開

現在、新富町では、行政からの提案を待つのではなく、自らがまちづくりを提案し、行動することで成功事例をつくり、自分達がリーダーシップを取って駅前周辺全体を盛り上げたいという意識が生まれており、富山の顔としての駅前の活性化に向けた動きを本格化し始めています。富山大学は新富町自身が主体となって取り組む事業展開のなかで、平成26年に予定された北陸新幹線開通を控え、魅力ある富山駅前の将来を見据えた地域づくり支援を行っていきます。